

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月5日(金)
 児 童 2年1組 男子15名 女子18名(6校時)
 指導者 加美山 悦子

- 1 単元名 お話の人ぶつと自分をくらべて読もう
 教材名 「わたしはおねえさん」 <関連図書>すみれちゃん
 すみれちゃんは1年生
 パパはステキな男のおばさん
 おいでおいでの木において 他

2 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動	第2学年 「読むこと」オ 「自分と比べて、♪体けん♪お話し車にまとめよう。」
言語活動の説明	読み取ったことをもとに感想文を書く。 <情報解釈力に関わって> 登場人物の行動や場面の様子などに着目して内容を読み取る ことによって、感想をもつことができる。 <自己活用力に関わって> 感想文の文型を用いて、自分の経験と比べた感想を書くこと ができる。
必要とされる知識・技能	① 作品名 ② 著者名 ③ 心に残った所(登場人物の言動・挿絵) ④ 心に残った訳 ⑤ 自分と比べて

3 単元について

(1) 児童について

児童が友達と一緒に国語を学ぶ意味の一つが交流であるといえる。実際に授業で用いることで力を伸ばしていこうと考えている。1学期末のアンケート結果から、「相互交流力」について問う「友達どうして意見や考えを交流することが好きですか」の問いに「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童が96%と高い結果となった。また、「情報解釈力」について問う「あなたは国語の学習をするときに、大切な言葉に気を付けながら読み取っていますか」においては、「いつも気を付けている」「なるべく気を付けている」と答えた児童が92%とやはり高い数値が表れている。しかし、「自己活用力」については、2年生の1学期時で問う段階にみならず、児童が自分で自己活用しているという意識に至るまで学習を進める必要があると考えた。そこで、児童自身が、情報解釈力を使って自己活用力を高める指導法を考え、実践することとした。

児童は、1年生の「くじらぐも」から「本のしょうかいカード」に取り組み、「ずうっとずっと大すきだよ」で本を紹介する形態(題名・登場人物・物語のないようや好きなどころや心に残った言葉等)を学習した。その書きためたものを自己活用力の第一歩として「おはなしれっ車」にし、学習の軌跡として残している。2年生になってもこの学習形態を継続してきた。そして、「新お話し車」とし、題名と登場人物の他に「登場人物を紹介するための言葉や文」と「心に響いた言葉」を書く内容とした。そこで、本単元においてもこの学習の流れを継続させる。児童は、これまでの学習で、物語の文や言葉に着目して自分の考えを持てるようになってきている。しかし、その考えに

自分の経験を重ね合わせるという思考は働いていない。よって、ここでの学習では、自分の知識、経験、読書体験とを結び付けた感想を求めることとする。本を紹介するにあたり、自己体験を伴う感想を加えた「♪体けん♪お話れっ車」とし、学ぶべきことをはっきりさせ、学習に取り組みたい。

学校生活の入門期の1～2年生に対しては、学校生活全般において生活体験の不足を補いながら、豊かな体験に裏打ちされた、実感のこもった言葉を育てることが大切であると考え。その体験の一つに、言葉の獲得にとって必要不可欠な本との出会いがある。そこで、入学時より「読み聞かせ」を基盤として、児童自らが求めて楽しむ読書へとつなげたいと考え継続してきた。

(本学級の児童は、男子15名中、特別支援を要する児童1名、個別指導を要する児童1名、保育園からの申し送り事項があり学習活動に配慮の必要のある児童5名という学級、学年であり、視覚に訴える学習活動を随時行っている。)

【身に付けさせたい力】

○登場人物の行動や場面の様子を思い浮かべながら、自分の生活経験を結び付けて感想を持つ力。

(2) 教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。

本教材は、すみれちゃんが、妹の落書きによって心の葛藤を乗り越え、お姉さんらしく成長するお話である。歌を作るのが好きなすみれちゃんは、歌詞の中に自分の心境を綴っている。しかし、その後、妹とのやりとりによって行動に変化が表れる。この行動こそ、すみれちゃんの成長である。すみれちゃんがおねえさんとして成長していく姿を読み取ることが、この物語の大きなポイントとなる。そのために微妙な言葉遣いや行動の変化に気付かせ、そこから考えられる登場人物の気持ちや様子を児童から引き出す。

また、同学年の子どもが中心人物なので、共感しながら読むことも期待できる。これまでの教材でも登場人物に共感しながら読むことはあったが(黄色いバケツ等)、ここで初めて「人」を扱った物語に触れる。そのため自分の経験を思い出しながら、自分の思いをはせることのできる教材であるといえる。よって、登場人物の行動の変化を読み取り、自分の経験と比べながら読んだり、感想に書いたりする指導に適している教材といえる。

さらに、本作はシリーズの中の一作品である。他のシリーズと合わせて読むことで、より深い人物像を描いたり、作品の世界観や作品の雰囲気慣れ親しんだりすることができる。本を読むきっかけになることも期待できる。さらに、「楽しんで読書しようとする態度を育てる」ことをねらいとし、読書に親しみ、読書を通して生活を豊かにしていく気持ちを育てたい。

(3) 指導にあたって

児童の実態や教材の特性から本単元で子どもたちに身に付けさせたい力を、「登場人物の行動や場面の様子を思い浮かべながら、自分の生活経験とを結び付けて感想をもつ力」と考えた。児童は、これまで、「スイミー」の学習において、スイミーになりきったり、スイミーに話したいこととして簡単な感想をまとめることができた。しかし、自分の生活経験と重ね合わせた感想をもつことはなかった。ここでの感想は、今の自分と過去の自分とを比べて書く感想を求めたい。そのため

に、四つの指導法を用いて身に付けたい力に迫る。

一つ目は「生活経験を想起させる場の設定」である。児童一人一人が自分の思いや考えをもてるようにする。そのために、夏休み中に自分より小さい子とのふれあいの機会を設け、そのシーンを写真に収めている。また、その機会がない児童もいるため、1年生とのふれあいの機会を設けた。年下の子どもと接した時の自分の経験を重ねながら、すみれちゃん的心情や行動の理解を深め、自分なりの感想をもつことができるものとする。

二つ目は補助学習教材としての「並行読書」である。同年代の主人公と自分とを比べる読書体験を十分に行わせることにより、感想をより深められるものとする。

三つ目は「言葉の宝箱」である。本教材の中から、心に残った所を見つけ、小箱の中に言葉を集めるという活動である。言葉の小箱に入れるもの考えるということは、物語の基本構造を押さえながら読み、主人公の気持ちを読み取ることに繋がると考える。主人公の気持ちを読み取るからこそ、自分と比べることができるものとする。

四つ目は「♪体けん♪お話し車」である。これまでの「おはなしれっしゃ」「新お話し車」の本の紹介カードを受けて、ここでは、自分の体験と比べる感想の書き方を意識する。そのために、簡単な文型（①心に残ったところ②心に残ったわけ③自分と比べて）を与え、自分と比べる感想文の書き方を提示する。カードの良さは、音声言語による情報伝達のようにその時その場限りのものではなく、伝えたいことが文字として残り、何度も読み返すことができることである。なお、誰がどんな表紙の本を選んだかをわかりやすくするため、また、友達の選んだ本を探す手立てとして「紹介者と本の表紙掲示」をしている。

これらの点に留意しながら指導することにより、子どもたちに「登場人物の行動や場面の様子を思い浮かべながら、自分の生活経験を結び付けて感想をもつ力。」が身に付くものとする。

4 単元の指導目標

◎登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読み、自分の経験と結び付けて、感想をもつことができる。「読むこと」(1)オ

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・自分と等身大の人物が描かれた物語を、体験や読書経験と重ねながら興味をもって読み、作品の世界を楽しもうとしている。	・登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読み、自分の経験と結び付けて、感想をもっている。(1)オ	・文の中の主語と述語に気を付けて読んだり、書いたりしている。 (1)イ(カ)

6 指導計画及び評価規準 (「読むこと」 1 2 時間)

次	時	学習活動	□評価規準 ◇身に付ける知識・技能	身に付けさせたい力と そのために用いる手立て				
				課題 設定力	資料 活用 力	情報 解 積 力	自 己 活 用 力	相 互 交 流 力
一	1	○中心学習材を読んで感想をもち、並行読書の本の人物と自分を比べて、感想(「♪体けん♪お話れっ車」)を書くという単元のめあてを知り、学習計画を立てる。	□物語の感想を書くことに関心をもち、本単元の見通しをもとうとしている。【関】 知識・技能 ①作品名 ②作者名 ③心に残った所 ④心に残った訳 ⑤自分と比べて ◇ ①作品名 ②作者名	○単元を貫く学習課題	○並行読書			
	2	○挿絵、センテンスカードの並べ替えをし、お話の順序を意識して音読する。	□いつ、誰が、どこで、何をしたかを確認している。【読】 ◇ ③心に残った所			○主題を解釈する場		
二	3	○歌を視写して歌詞の順番を捉えたり、すみれちゃんの気持ちを考えて動作化をする。	□歌を歌うすみれちゃんの気持ちを捉えたり、すみれちゃんの動作化を通して、具体的なイメージをもち、心内語「しゅくだいをするんだわ。」等の表現方法に気付く。【読】 ◇ ③心に残った所			○言葉の抽出、主題を解釈する場、既習事項の想起		○読みを整理する
	4 5	○動作化の2回目(「ぐちゃぐちゃのものを見た時」「ぐちゃぐちゃの絵をかわいく思えた時」)を行う。3つのセンテンスカードから、コスモスだと思えた所を選択する。 ○すみれちゃんの言動から心に残った所を「言葉の宝箱」に入れていく。	□会話文や行動から、すみれちゃんの気持ちの変化した所を読み取る。【読】 ◇ ③心に残った所					
	6	○すみれちゃんのタイトルを考え、「言葉の宝箱」から文や言葉の一つを選び、その文を選んだわけを発表する。	□心に残った所を見つけている。【読】 ◇ ③心に残った所 ④心に残った訳			○言葉の抽出、読みの立場		

	7 本 時 8	○「♪体けん♪お話し車」を使って感想を書く。 ○「♪体けん♪お話し車」を読んで交流する。	□心に残った登場人物の言動をもとに、自分と比べている。【読】 ◇⑤自分と比べて □自分と比べた感想をもっている。【読】 □友達の感想文の良さに気付いている。【読】 ◇⑤自分と比べて		○資料の見方	○主観を解釈する場 ○解釈したことを記述する時間と場の設定	○生活経験を想起させる場の設定	○読みを整理する
三	9	○並行読書してきた本の中から、一番お気に入りの本を選ぶ。	□第二次までに蓄積してきた並行読書で見つけた、お気に入りの本を選んでいる。【関】 ◇①作品名 ②作者名	○単元を貫く学習課題				
	10	○登場人物の言動から、心に残った所を「言葉の宝箱」に入れる。	□心に残った所を見つけている。【読】 ◇③心に残った所			○言葉の抽出	○考えや思いの蓄積	
	11	○「♪体けん♪お話し車」使って感想を書く。	□叙述や人物の一連の行動から自分と比べる感想の書き方を理解している。【読】 ◇④心に残った所 ⑤自分と比べて				○主観を解釈する場 ○解釈したことを記述する時間と場の設定	○交流する視点、読みを整理
	12	○書いた「♪体けん♪お話し車」を読んで交流する。(友達の感想を聞いて気付いたことをコメントする。)	□この学習でどんなことができるようになったか振り返る。【関】 □友達の感想と自分のものを比べて、感想の相違(読み方の相違)に気付いている。【読】					

7 本時の指導（第二次第7時）

- (1) 本時の目標 心に残った登場人物の言動をもとに、自分と比べながら「♪体けん♪お話しっ車」にまとめることができる。
- (2) 本校の研究に関わって
自己活用力 「読み取ったことに自分の思いや考え、生活体験などを加えて目的や課題を達成する形にまとめる力」



低学年 「読み取ったことをもとに自分の思いや考えをまとめることができる。」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つ か む 8 分	1 学習のゴールを確認する。 2 すみれちゃんのタイトルになった「言葉の宝箱」の一文とそれを選んだ訳を発表する。 3 本時の課題を把握する。 すみれちゃんと自分の行どうをくらべてお話しっ車にかんそうを書こう。	・「♪体けん♪お話しっ車」にまとめるということに立ち返り、作成のために必要な項目を想起する。 【教師の「♪体けん♪お話しっ車」の提示】 ・偉くて、立派で、優しく、頑張りやのすみれちゃんだけでなく、妹の行動を許したり、認めたりする成長を捉える。
ふ か め る 32 分	4 すみれちゃんと自分を比べる。 ○自分とすみれちゃんを比べて感想を書く時の4つのポイントは、何ですか。 ○すみれちゃんと自分を比べてどんな感想をもちましたか。 5 「♪体けん♪お話しっ車」を使って本の感想を書く。 6 本時の学習の経過として「♪体けん♪お話しっ車」を発表する。 ○友だちのお話しっ車で、いいなと思ったところはどこですか。	・前時までの学習掲示を活用する。 ・赤枠 もし、自分だったら 青枠 同じ経験、違う経験 緑枠 過去の自分と今の自分 黄枠 本の体験など (並行読書カードの使用) ・隣の児童とシェアリングした後、発表を求める。 ・【「感じシート・音楽編」を活用し、感想を話す手立てとする。】 ・【自分と比べるために、夏休みに撮った写真も参考にする。】
ま と め る 5 分	7 自己評価する。 8 次時の学習内容をつかむ。	・4つの感想の視点から選択して感想が書けたか記号で評価する。本単元で付けた力を実感させる。 ・並行読書でも「♪体けん♪お話しっ車」に取り組むことを意欲付けとする。

(4) 本時の評価規準

登場人物の言動をもとに、自分の生活経験と結び付けながら、登場人物と自分を比べながら、「♪体けん♪お話しっ車」にまとめることができる。 【読(オ)】